CORE
Metadata, citation and similar papers at core.ac.uk
Provided by Hiroshima University Institutional Repository

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博　士　（　教育学　）	氏名	西　川　京　子
学位授与の要件	学位規則第４条第１・②項該当		

論　文　題　目

「地球的市民性」を培うグローバル学習方法論研究
―イギリス地理教材を手がかりに―

論文審査担当者

主　　査　　教授　　小　原　友　行
審査委員　　教授　　朝　倉　　淳
審査委員　　教授　　木　村　博　一
審査委員　　准教授　永　田　忠　道

〔論文審査の要旨〕

本論文は，日本におけるグローバル教育の課題を克服する視点を見いだすために，現代イギリス地理教材を手がかりにして，「地球的市民性」を培うグローバル学習方法論を構築することを目的としている。

論文は，序章から終章までの７つの章で構成されている。序章では，「地球的市民性」を「地球的問題解決への積極的参加」と「創造的寛容」から構成されるととらえた上で，これまでの日本におけるグローバル教育は教科の枠を超えた一般的な学習として追求されてきたことにより，一教科領域に定着してこなかったという課題を指摘し，それを克服することを目指した本研究の具体的な目標，特質と意義，手順・方法を述べている。

第１章では，「地球的市民性」を培うためには「地球的問題解決への積極的参加」と「創造的寛容」を関連付けて育成することの必要性を明らかにするとともに，本研究においてこれら両面を統一的に育成するグローバル学習方法論を構築していく具体的な視点を明らかにしている。また，その視点から考察すれば，研究対象として取り上げる現代イギリス地理教材に内在するグローバル学習方法論は，「知的解決」を重視した「探究型」，「知性的解決」を重視した「対話型」，「実践的解決」を重視した「参加・参画型」に類型化できることを指摘している。

第２章では，「探究型」グローバル学習方法論の事例として，*Geography 360°* の単元「地震や噴火と共に暮らす」と，*Cambridge Geography Project* の単元「端で暮らす」を取り上げて分析し，「知的解決」を通して「地球的問題解決への積極的参加」と「創造的寛容」を統一的に育成する「探究型」グローバル学習方法論としては，「分析」を原理とする「社会探究学習」と「内省」を原理とする「自己探究学習」の２つが考えられることを指摘し，それぞれの学習方法論の特質を明らかにしている。

第３章では，「対話型」グローバル学習方法論の事例として，*Geography: People and Environment* の単元「グローバルに考え，ローカルに行動する」と，*Earth Works* の単元「地域から始める－グローバルに考える」を取り上げて分析し，「知性的解決」を通して「地球的問題解決への積極的参加」と「創造的寛容」を統一的に育成する「対話型」グローバル学習方法論としては，「分析」を原理とする「競争的グループ学習」と「内省」を原理とす

る「協働的グループ学習」の２つが考えられることを指摘し，それぞれの学習方法論の特質を明らかにしている。

第４章では，「参加・参画型」グローバル学習方法論の事例として，*Geotext* の単元「発展」と，*geography @ work* の単元「なぜ世界には豊かな地域と貧しい地域があるの？」を取り上げて分析し，「実践的解決」を通して「地球的問題解決への積極的参加」と「創造的寛容」を統一的に育成する「参加・参画型」グローバル学習方法論としては，「分析」を原理とする「フォアキャスティング学習」と「内省」を原理とする「バックキャスティング学習」の２つが考えられることを指摘し，それぞれの学習方法論の特質を明らかにしている。

第５章では，第２～４章で考察してきたイギリス地理教材にみられる６つのグローバル学習方法論（「社会探究学習」「自己探究学習」「競争的グループ学習」「協働的グループ学習」「フォアキャスティング学習」「バックキャスティング学習」）を比較検討し，それらの類型的特質を明らかにしている。

終章では，本研究の成果をまとめるとともに，日本におけるグローバル教育の課題を克服する視点を抽出している。また，今後の課題として，「地球的市民性」を培うグローバル学習方法論を日本において具現化していくためにも，カリキュラムや単元を開発し実践することを通して，構築したグローバル学習方法論の精緻化を図っていくことの必要性を述べている。

本研究は，以下の３点で評価できる。

第１に，先行研究の多くが外国での取り組みの紹介にとどまっているのに対して，日本におけるグローバル教育の課題克服という視点から分析を行い，今後の改善につながるグローバル学習方法論を構築していることである。

第２に，先行研究の多くが通教科的なグローバル教育の考察であり，それゆえに教育実践に取り入れることが困難であったのに対して，その課題を克服するという課題意識から，イギリス地理教材の分析を通して，教科学習の中で「地球的市民性」を培うカリキュラムや授業を開発していくことを可能にするグローバル学習方法論を類型的に明らかにしていることである。

第３に，先行研究の多くがカリキュラムや単元構成の分析を中心になされてきたのに対して，イギリス地理教材の分析を通して，より具体的な授業場面においてグローバル学習方法論がどのように具現化されているのかを，学習過程の組織や学習活動の選択にまで入り込んで解明していることである。

以上，審査の結果，本論文の著者は博士（教育学）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

平成２９年　２月１３日